

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 30 年 10 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

10 月	1 日	～	750 円/Kg
10 月	4 日	～	770 円/Kg
10 月	9 日	～	750 円/Kg
10 月	16 日	～	740 円/kg
10 月	19 日	～	730 円/kg
10 月	24 日	～	740 円/kg

平成 30 年 10 月度は平均で 744.70 円/kg となり、前月比 27.00 円/kg の値上がりとなりました。

### 海外銅価の動き

10 月の LME 銅相場	10/1 ～ 10/30 (安値ドル 6,147.00～6,325.00 高値ドル)
10 月の NYC 銅相場	10/1 ～ 10/30 (安値セント 273.75～282.25 高値セント)

10 月度の LME 現物は、10/1 \$6,172.00 でスタート。LME 在庫も 20 万 t を切るところでの始まりとなった。前半は、上海先物取引所が 5 日まで国慶節の連休に入っていることや経済情勢においては大きな動きが見られなかったことで底固い相場となった。その後チリ・コデルコ社が 2019 年度中に鉱山の抜本的改革のため 10 億ドルの融資が必要と伝えられ、具体的には 12 月よりチュキカマタ鉱山が 60 日間の操業休止を発表、やや上げの展開となった。中盤以降は中国関連のニュースによる動きが中心となった。プラス要素は 9 月の中国貿易で未製錬銅の輸入量が 2 年半ぶりの高水準になったことや、銀行融資が予想を上回る伸びとなったことなどで、マイナス材料は 7-9 月の国内総生産の成長率が前年同期比 6.5% と 2009 年 1-3 月期以来の低さになったことなど。後半はサウジの件や世界的株安などの懸念材料に影響された形となった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 4 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

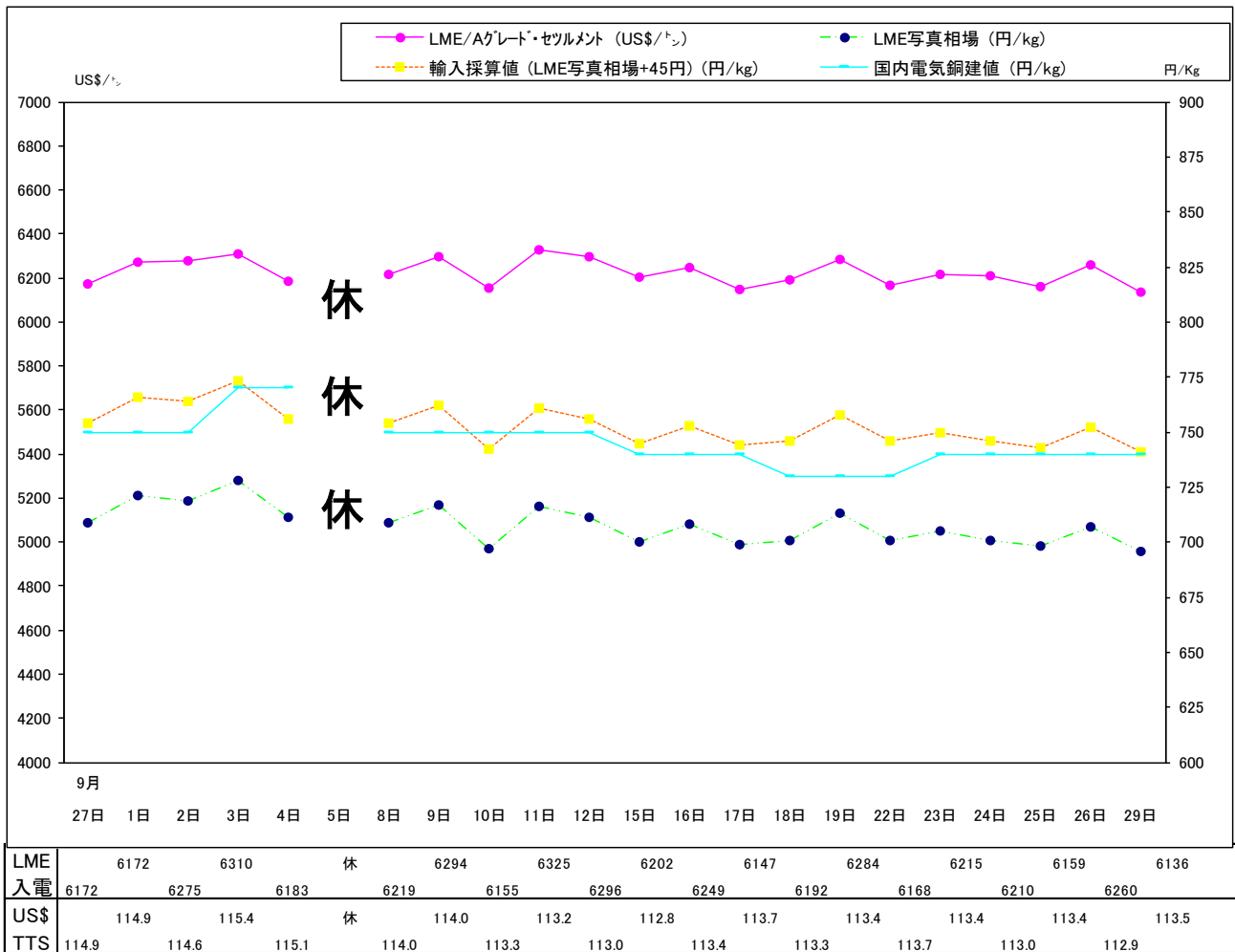
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

10 月度の国内建値は 1 日 750 円/kg でスタート。4 日 770 円に上がるも、為替の影響もあり 9 日 750 円、16 日 740 円、19 日 730 円と徐々に下げる形となった。24 日に 740 円とやや戻し終値となった。

10/30 付 LME \$6,159.00、30 日付 為替 (TTS) 1USD=113.48 円で日本円換算計算値 699 円/kg。2018 年 11 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、740 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年10月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 10月 1日 ~ 352 円/kg
- 10月 4日 ~ 358 円/kg
- 10月 12日 ~ 346 円/kg
- 10月 23日 ~ 355 円/kg
- 10月 26日 ~ 352 円/kg

平均351.90円/kg

平成30年10月は上記の通りで前月比 31.40円/kgの 値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	10月	292.00	円/kg	(前月比±	0.00	円/kg)
電気錫(相対)	10月	3,600.00	円/kg	(前月比+	50.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	10月市中価格	1,500.00	円/kg	~ 1,550.00	円/kg	
銀	9月平均	52,700.00	円/kg	(前月比-	2,140.00	円/kg)
	10月31日	53,980.00	円/kg			
金	9月平均	4,339.11	円/g	(前月比+	21.11	円/g)
	10月31日	4,473.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成30年9月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		8月度実績	9月度速報	前月比	前年9月度実績	前年同月比
銅	板	1,231	1,328	7.9%	1,191	11.5%
	条	19,722	22,450	13.8%	22,495	-0.2%
	管	7,205	9,362	29.9%	9,310	0.6%
	棒	2,111	2,280	8.0%	2,251	1.3%
	線	256	268	4.7%	250	7.2%
黄銅	板	506	594	17.4%	524	13.4%
	条	7,619	9,470	24.3%	8,948	5.8%
	管	472	526	11.4%	640	-17.8%
	棒	14,807	14,689	-0.8%	15,399	-4.6%
	線	2,350	2,491	6.0%	2,575	-3.3%
青銅	板	2,493	2,381	-4.5%	2,891	-17.6%
	条					
	棒	229	228	-0.4%	279	-18.3%
	線	71	68	-4.2%	70	-2.9%
洋白・その他	板	479	502	4.8%	521	-3.6%
	条					
	棒	44	42	-4.5%	30	40.0%
	線	335	387	15.5%	454	-14.8%
合計		59,930	67,066	11.9%	67,828	-1.1%

9月の伸銅品生産速報は、67,066トンで前月比プラス7,136トン、前年同月比-1.1%となり、前年同月比が4ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の6月分実績及び7月分推定によれば、6月分実績は、7部門中で出荷ウェイトの高い建設電販、電力、輸出の3部門が下支えし、総計は5万9千45tで前年同月比2.4%増となり、3ヵ月連続で伸長した。ここに来て建販需要が同様に3ヵ月間増加するなど、やや動きだしたのが原動力となった。

また、7月分推定は建設電販が上向くなど通信と自動車を除き増加する見込みであり、総計は5万9千800tで同4.7%増加した。

一方、6月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは3部門となり、電力は一部の張替え需要が発生した上、前年実績が低いいため4ヵ月振りに増加に転じ、同4.5%伸長。今後のV字回復に期待したい。建設電販は、東京五輪や再開発案件などが幾分動き出し同5.0%増え、下期から本格需要に入る見通し。輸出は、電力案件等が牽引し4割強増加した。

マイナスグループは通信、電気機械、自動車、その他内需の4部門になった。

通信は光化が響き、CCPなどが低調であり、同10.9%減と8ヵ月連続で下降した。電気機械は、車載向けが伸び悩み、同2.5%減と再び前年同月を割り込んだ。自動車は、自動車の生産台数が前年を下回ったため、同3.0%減と26ヵ月振りに低下し、一服状態となった。その他内需は、総じて不調なことから6ヶ月連続で前年を下回り、同2.1%減少した。

### 2018年6月分(実績)・2018年7月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	6月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	7月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	6月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	784	▼ 5.1	▼ 10.9	800	2.0	▼ 5.8	1,333	(▼2.8)	▼ 0.6
電力	(1,310) 4,326	(▼36.0) 5.0	(▼21.0) 4.5	(1,000) 4,500	(▼23.7) 4.0	(▼40.5) 11.6	902 5,046	(▼32.4) 5.0	(▼10.3) 14.5
電気機械	(402) 12,843	(52.9) 10.5	(▼9.9) ▼ 2.5	13,200	2.8	5.5	389 18,309	(66.2) 10.6	(▼5.8) 5.3
自動車	(96) 6,844	(20.0) 9.1	(▼ 2.0) ▼ 3.0	6,900	0.8	▼ 0.3	388 31,421	(16.9) 9.1	(3.7) 1.1
建設・電販	(39) 27,687	(39.3) 9.0	(56.0) 5.0	28,200	1.9	3.5	50 32,380	(78.6) 6.5	(177.8) 125.0
その他内需	(48) 4,485	(11.6) 11.0	- ▼ 2.1	(600) 4,400	(2.6) ▼ 1.9	(▼10.3) 6.2	53 7,183	(23.3) 8.9	(178.9) 7.5
内需計	(1,895) 56,969	(▼23.4) 9.0	(▼12.3) 1.4	(1,600) 58,000	(▼15.6) 1.8	(▼31.9) 4.2	1,782 95,672	(▼9.5) 8.1	(▼2.5) 6.7
輸出	(288) 2,076	(1052.0) ▼ 23.3	(1820.0) 41.3	(300) 1,800	(4.2) ▼ 13.3	- 25.9	142 6,742	(517.4) ▼ 40.3	(1190.9) 29.2
合計	(2,183) 59,045	(▼12.7) 7.4	(0.4) 2.4	(1,900) 59,800	(▼13.0) 1.3	(▼19.2) 4.7	1,924 102,415	(▼3.5) 2.6	(4.6) 7.6
心線販売	(1,007) 30,790	(▼15.3) 10.6	(▼13.0) ▼ 0.7	(1,300) 30,700	(29.1) ▼ 0.3	(36.6) 1.9	282 23,878	(▼15.3) 11.7	(▼4.4) 16.6

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2018年6月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,562	5.8	▼ 11.8	3,440	14.0	▼ 3.5	
巻線	11,762	11.1	▼ 3.3	12,917	11.1	7.0	
機器用電線	3,620	2.2	2.1	10,910	5.2	7.0	
通信用電線・ケーブル	1,412	▼ 2.1	▼ 6.2	3,188	2.8	2.8	
電力用電線・ケーブル	21,506	6.3	10.6	23,521	▼ 10.3	25.1	
被覆線	11,610	9.6	3.5	15,686	5.9	7.6	
輸送用電線	5,573	6.2	▼ 3.3	32,753	6.8	0.6	
銅電線計	59,045	7.4	2.4	102,415	2.6	7.9	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル 電力用電線・ケーブル、被覆線 計	69 2,470 2,547	23.2 9.5 9.9	▼ 4.2 2.0 1.9	228 2,956 3,226	21.9 9.1 10.4	▼ 4.2 12.7 11.6
アルミ電線計	2,183	▼ 12.7	0.4	1,924	▼ 3.5	4.6	
光製品	3,957,270	▼ 3.9	▼ 2.9	23,279	10.4	▼ 1.8	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,886	8.0	▼ 22.7	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場の第1週は、米国・カナダ・メキシコの三国間によるNAFTA合意が維持されたことを背景に堅調に推移。Norsk Hydroのブラジルのアルミナ製錬所での生産停止報道を受け大きく上昇。同アルミナ製錬所の生産量は、640万MTあり、中国を除くグローバルな生産量の10%に相当し、アルミ相場への影響も大きい。100%停止には60～90日かかるとの発表を受け相場は、\$2,100台まで下落。第2週、Norsk Hydroのブラジル、アルノルテ・アルミナ製錬所の再開にめどが立ったとの報道で大きく下落。減産停止報道以前の水準まで値を戻す結果となる。世界的な株安連鎖で投資家のリスク回避姿勢が強まる中、ドル高が落ち着くとアルミ以外のメタルについては、買いが入る。アルミについては、アルノルテの生産停止が免れた事を受け引き続きじり安。第3週は、米国・サウジ間の地政学的リスクの高まりなど、引き続きセンチメントは改善されず狭いレンジで推移。中国経済の減速懸念に加え、米・サウジ間の関係緊迫を背景に米国株が大幅下落。非鉄相場は、ドル高も追加材料に総じて軟調に推移。第4週、最終週、米中貿易摩擦への懸念からマーケット全体としてセンチメントは悪く、上値が重い。チャートの的には、4月に米国がロシア制裁を発表した以前の水準まで戻っており次なるサポートラインは\$1,980あたりである。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年10月積 2,171.00～2,186.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年10月積 261.10～262.90 円/kg
- ・NSP 2018年8月 281.0 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年10月～12月 310.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年8月	'18年9月	'17年9月
月生産	*2,365.0	2,291.0	2,265.0
平均日産	*76.3	76.4	75.5

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

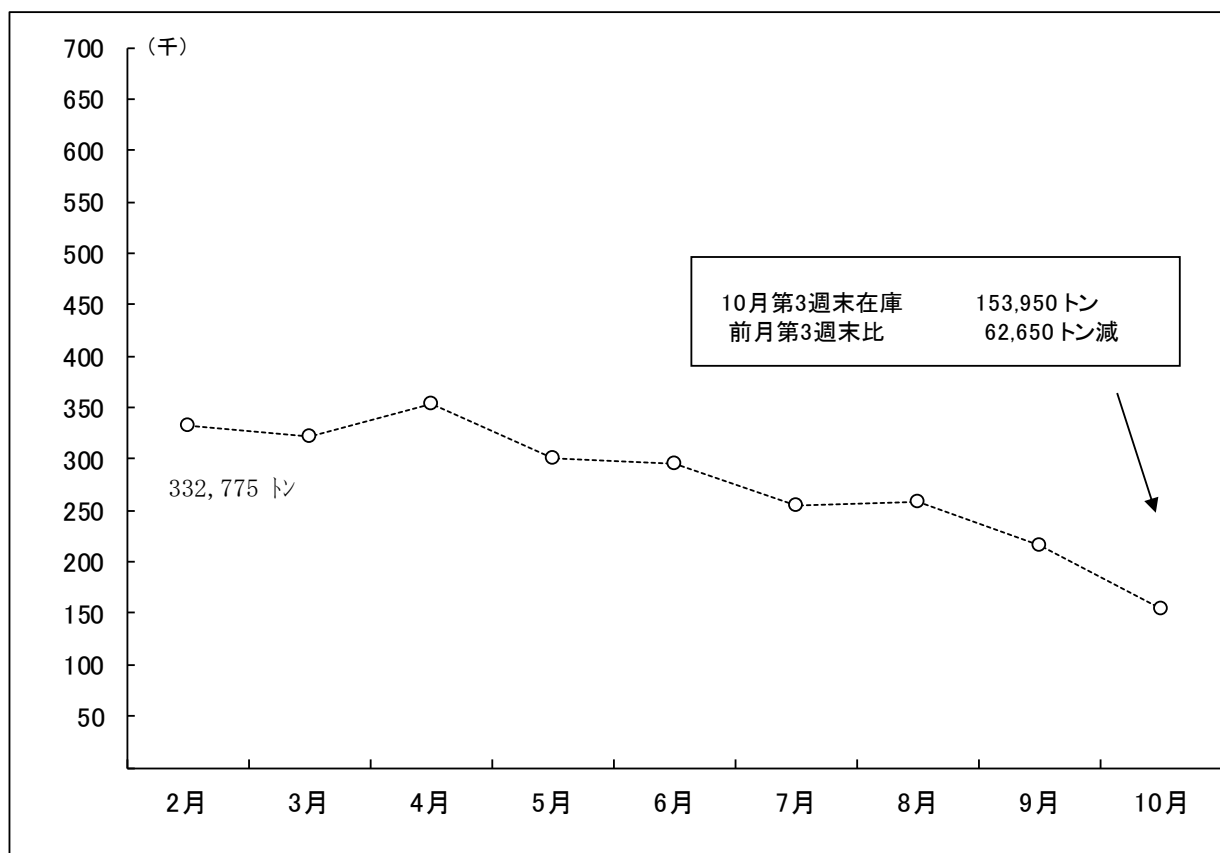
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年6月	2018年7月	増減	2017年7月	増減
横浜	151,700	156,600	+4,900	127,500	+29,100
名古屋	140,200	138,800	-1,400	126,000	+12,800
大阪	15,000	15,000	±0	14,500	+500
合計	306,900	310,400	+3,500	268,000	+42,400

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 30年10月19日現在                      163,725 S T              前月比              13,669 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年8月末                                  103,664 トン              前月比              6,021 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年8月確報                              59,930 トン  
 ・ 30年9月速報                              67,066 トン              前月比              113.3 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年9月速報                              56,900 トン              前月比              103.8 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 9月	板 類	100,561 トン	
	押 出 類	62,631 トン	
		163,192 トン	前月比              112.5 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。